

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

| | | | |
|---|---|--------------|--------|
| 博士の専攻分野の名称 Degree | 博 士 (教育学) | 氏名 Author | 新井 美津江 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第①・2項該当 | | |
| 論 文 題 目 Title of Dissertation | カリキュラムメーカーとしての数学教師の実践的知識に関する研究 ーフィリピン小学校教師を事例としてー | | |
| 論文審査担当者 Dissertation Committee Member | 主 査 Committee Chair 広島大学大学院国際協力研究科 教授 馬場 卓也 印 Seal 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 清水 欽也 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 三輪 千明 審査委員 Committee 広島大学大学院教育学研究科 教授 松浦 武人 審査委員 Committee 宮崎大学大学院教育学研究科 准教授 木根 主税 | | |
| 〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review | <p>知識基盤社会における学校教員には、省察と熟考により教授活動を創造し、その過程で問題を解決していくことが求められている。本論文は、その問題解決過程に影響を与える教師の実践的知識に関する研究である。これまで、教師の知識研究は静的にアプローチされることが多く、本研究では知識が実践において見せる動的様相に注目した。</p> <p>論文は全6章で構成されている。序章において問題の所在と本研究の目的および方法を述べた。本研究では、「カリキュラムメーカー」としての教師の実践的知識の動的様相を分析することを、目的とする。第1章では、本研究で鍵となる実践的知識の構成要素および環境要因について先行研究のレビューを行い、前者としてカリキュラム知識と教授内容知識(PCK)、後者として信念と文脈の重要性を同定した。さらにこれらの考察と Fennema & Franke (1992)に基づき、本研究の概念枠組みを提案した。第2章では、この枠組みに基づき事例研究の方法を記述し、特に実践的知識を動的に捉えるように、教授サイクルー翻案・授業・省察ーを内包させた。第3章では、2012年にカリキュラム改定を行い、現在教師教育改革に取り組むフィリピンを事例として取り上げる妥当性、その社会文化的背景を述べた。第4章では、一次調査(実態調査、2016年11月)、二次調査(教授的介入、2017年1月)の概要を述べ、授業観察、質問紙、インタビューの結果の分析を行った。研究対象は小学校教師6名(各学年1名)である。終章では、以上を踏まえて総括的考察を行った。考察の結果、教授サイクルの各段階を分析し、意図されたカリキュラムの記述内容と子どもたちが習得した内容の間にある乖離、その乖離におけるカリキュラム知識の根幹的役割、教授的介入による乖離の改善、という3点が明らかにされた。</p> <p>本論文は、以下の諸点が独創性の高い点として評価された。(1)実践的知識の動的側面に関する概念枠組みを提案したこと、(2)調査を通して、フィリピン人教師の実践的知識の動的様相を明らかにしたこと、(3)教授的介入による改善可能性を示したことである。なお、申請者はこれまで、査読つき論文8編、国際会議発表8編、国内学会発表16編を公表した。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p> | | |